

令和7年度植物友の会活動記録

久保晴盛・井上尚子・富澤まり

はじめに

植物友の会は、植物公園を活動の場として植物愛好者が集い、植物・園芸に関する知識・技術の向上を図り、自然保護の心を育てることを目的に、昭和54年10月に設立された会である。

令和8年1月現在、会員数は個人会員が87(-2)名、家族会員が21組44(-19)名の計131名であった。()内は昨年度同月からの増減会員数。

活動

年6回の例会、年2回の野外観察会、会誌「はなの輪」の発行などを主な活動として行った。また、園内ボランティア(友の会ボランティア)、部会活動(植物同好会)などは通年で活動した。

(1) 例会

2か月に1回の定例会を展示資料館2階講堂で行った(表1、写真1、2)。栽培・展示課職員が持ち回りで行う年4回の「季節の園芸作業」のほか、招聘した外部講師による「特別講義」、年2回の「植物クラフト」(会員有志がボランティアで協力)を実施した。例会の前には運営委員会を開催し、友の会の活動方針などを随時協議した。

表1 例会の内容

第1回 5月11日 参加者32名	観葉植物 どこでどんなの育てたい?*1 フジバカマの育て方*1 バックヤード見学
第2回 7月13日 参加者22名	ベゴニアの夏越し*1 除虫菊を使った線香づくり*2
第3回 9月14日 参加者29名	ランの植え替えについて*1 バラの夏剪定ほか*1 薬草の宝庫「伊吹山」の草花について
第4回 11月9日 参加者25名	・特別講義 漢方処方における生薬組合せの妙 —こむら返りの「芍薬甘草湯」から「葛根湯」— 講師：神田博史 先生
第5回 1月11日 参加者10	土づくりについて*1 ヒンメリ飾りづくり*2
第6回 3月12日	熱帯植物紀行 インドネシアへの旅 ほか(予定)

*1 季節の園芸作業 *2 植物クラフト



写真1 バックヤード見学(5月11日)



写真2 神田先生による特別講義(11月9日)

(2) 観察会

広島県内を中心に、日帰りかつ公共交通機関でアクセスできる場所を候補地として、会員の希望を踏まえて開催地を選定している。

今年度は、第1回として5月にフマキラー広島工場(廿日市市)の見学を、第2回として11月に被爆樹木探訪(広島市南区・中区)を実施した(表2、写真3、4)。

フマキラー広島工場では、(株)フマキラーに協力いただき、「ブレイズパーク」と呼ばれる同社の研究・開発部門の拠点施設を見学し、研究用に飼育しているゴキブリなどの害虫の観察や虫よけスプレーや除草剤などの実演解説など非日常の体験を行うことができた。

また、被爆樹木探訪は被爆80周年の節目を迎えたことを踏まえた企画であり、広島駅から幟町中学校(「原爆の子の像」のモデルになった佐々木禎子さんの母校)を経て縮景園へと向かうルー

トで実施し、エノキやイチョウなど計8本の被爆樹木を観察した。

表2 野外観察会の開催地と場所

第1回 5月13日 参加者数27名	・フマキラー広島工場（廿日市市）
第2回 11月11日 参加者数19名	・被爆樹木探訪（広島市南区・中区）



写真3 第1回野外観察会（5月13日）



写真4 第2回野外観察会（11月11日）

（3）園内ボランティア

第1・第3火曜日を基本活動日として、通年で開催した（表3、写真5、6）。当日自由参加を原則としているため、参加者数に幅はあるが、各回10名前後の安定した参加者がある。アジサイの剪定や花の植え付けなどの植栽管理、ハンギングバスケット作成やクリスマス飾るフラワー展の装飾など多岐にわたって園内の魅力向上に貢献していただいた。また、例会で実施した植物クラフトや年3回実施したワークショップの準備と当日の運営にも主体的に協力いただいた。なお、8月と9月の酷暑期については、今

年度は屋外作業を休止し、冷房の効いた屋内で可能なボランティア活動のみを行った。

表3 令和7年度友の会ボランティア活動記録

活動月	活動内容	のべ人数
1月*	植栽管理（ネモフィラ植え付けほか） クラフト準備（冬飾り）	15
2月*	装飾補助（春の特別ラン展）	25
3月*	装飾補助（春の夜間開園）	8
4月	植栽管理（花壇の手入れ） ワークショップ準備（プランターづくり）	20
5月	植栽管理（ログガーデン） ワークショップ本番	24
6月	植栽管理（ログガーデン） ワークショップ準備（線香づくり）	16
7月	植栽管理（アジサイ剪定） ワークショップ準備（線香づくり）	15
8月	ワークショップ本番	25
9月	夜間開園展示準備（ツキミソウ）	14
10月	ワークショップ準備・本番（押し花）	24
11月	クリスマス展飾付、ハンギング作成 クラフト準備（ヒンメリ飾り）	22
12月	植栽管理（除虫菊の手入れ） クラフト準備（ヒンメリ飾り）	25
1月	植栽管理（ネモフィラ植え付け） クラフト準備（ヒンメリ飾り）	22
2月	装飾補助（春の特別ラン展）	-

*令和6年度実績



写真5 押し花の材料採集（10月7日）



写真6 ネモフィラの植え付け（1月13日）

(4) ワークショップ（ボランティア協力）

クラフト体験などのワークショップを植物公園が3回企画し、事前準備と当日の運営を友の会ボランティアの枠組みで協力した（表4、写真7、8）。5月と8月のワークショップは昨年度に引き続き、同じ内容で実施した。また、10月の「押し花で遊ぼう！」は新規企画であり、園内で採取した花などから作成した押し花をカードに配置して作品を作るクラフト体験として、秋のグリーンフェア期間中に開催した。

表4 ワークショップ（ボランティア）

活動日時 (参加会員数)	イベント名	参加人数 (来園者)
5月6日 10:00～15:00 (14人)	お絵かきでオンリーワンのプランター作り	約150人
8月26日 10:00～12:00 (10人)	虫よけの話と除虫菊で線香づくり体験（線香づくり体験を担当）	23組50人
10月28日 10:00～15:00 (7人)	押し花で遊ぼう！	38人



写真7 ワークショップ（5月6日）



写真8 ワークショップ（10月28日）

(5) 会誌「はなの輪」の発行

A4版8ページ（観音開き）のリーフレット

として、植物の育て方や園内の見どころなどを紹介した会誌「はなの輪」を各号400部発行し、会員のほかに関係団体へ分譲した（表4）。また、会員向けのニュースレターを例会毎に発行した。なお、はなの輪については、植物公園の機関誌として内容を再編集したものを各号1000部発行し、広島市内の区役所や公民館等に配布した。

表4 会誌「はなの輪の発行」

令和7年4月	2025通巻183号（春～初夏号）
令和7年7月	2025通巻184号（夏号）
令和7年10月	2025通巻185号（秋号）
令和8年1月	2025通巻186号（冬～初春号）

(6) 部会

友の会の部会は、現在は植物同好会のみが活動しており、自主的に運営されている。例年、植物同好会では、2か月に1回、友の会例会前の午前中に会合を開いており、部会員が栽培・育成した苗物の交換も随時行っている。また、4月のサクラソウ展では出品（展示）への協力をしている。

まとめ

植物クラフトを取り入れた例会やワークショップを昨年度に引き続き実施した。参加者および準備に携わったボランティアの満足度は高く、参加した会員同士の交流も図ることができた。今後も、会員や会員の代表である運営委員の意見を参考に、植物クラフトを可能な範囲で継続していきたい。

友の会事業全体を俯瞰すると、新入会員の定着が積年の課題となっている。令和2年度に年会費を無料化した初年度は、コロナ禍の影響もあり会員数が103名まで減少したが、その後復調し、ここ数年は130名～150名程度の会員数で推移している。ただし、当年の新入会員を中心に未更新で退会となる会員が多く〔令和7年度は53名（うち新入会員15名）、令和6年度は42名（うち新入会員25名）〕、毎年3割～4割程度の会員が入れ替わる状況が続いている。

はなの輪の内容見直しや外部講師による講座・観察会の充実など、会員の満足度をより向上させ、定着率を高めるための工夫に努めていきたい。